

# Live in Style

上質な暮らし方を追求するライフデザイン誌 【リブ イン スタイル】

## 株式会社 ハウスプロ

Vol. 82

【特集】会話が生まれる空間づくり

- ◆趣味の空間のための交流が楽しめるインテリア
- ◆自然と人々が集まるガーデンテラスのあれこれ



### 会話が生まれる空間づくり



家族がずっと仲良く、会話が自然に生まれるような住まいにするには、どのようなことに気を付ければよいで

しょう?例えば、まず動線から。子供や家族が帰ってきて「すぐ部屋へ行ってしまつて気がつかない」ような動線はなるべく避けたいものです。

- 階段は家族が集うリビングを通る場所にする。
- 玄関に近い部屋は、和室や書斎にするなど、子供部屋以外の空間にする。

- 料理や家事をする人が孤立しないよう、キッチンや家事室はなるべくリビングに隣接させる。ただ動線を考えたからといって、リビングに集まる工夫がなければ、家族が遠ざかっていきます。

自分の部屋にこもってしまうぬよう、リビングに家族の好きなものを置いておくようにすれば、自然に家族が集まります。



世界遺産である白川郷では、今でも古民家で「囲炉裏(いろり)」のある生活が営まれているといいます。わが国では縄文の時代から、家族が集いあう場として囲炉裏が設けられてきました。薪をくべてお茶を沸かしたり、鍋を炊いて食事をしたり、また暖を取ったり、と様々な用途で家族の生活に使われるだけでなく、客人をもてなす場所でもありました。「囲み合う」という家族や友人とのコミュニケーションを大切にされていたからか、それは居間や茶室など常に住居の真ん中に位置し、会話を生み出してきました。中世のヨーロッパでも、囲炉裏と似たような、「暖炉」が取り入れられ、リビングルームには欠かせないインテリアとなったのです。さて、現代の暮らしでは、どのようなインテリアが人々の会話を引き出すのでしょうか。様々な工夫を取り入れて、もっと家族の距離を近づけてみませんか?

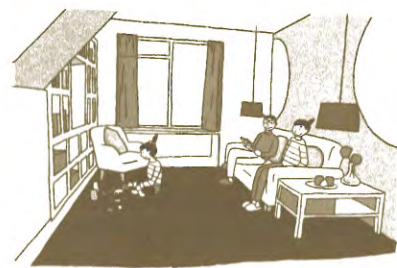
### 会話がはずむ ポジションのつくり方

いくら良質の家具を揃えても、会話がはずむとは限りません。そこにはいろんな条件が必要になってきますが、その中でも大切なのは、人と人の距離感=ポジションのつくり方がポイントになってきます。「会話がはずむ」ということに関して、相手と正面に座った時の会話量を「1」とすると、真横のポジションでの会話量は「2」、斜め45度でのポジションでの会話量は「4」と言われています。つまり、家族や友人とお茶や食事をする時でも、斜めの位置で座ると、程よい距離感になり、会話もよりはずむのだそうです。また、会話の中心=インテリアの重心を決めることも大切です。リビングとダイニングがつながっている場合、食事の時の会話をとぎれさせることがないように、どちらの空間からも話かけられるような距離感を保てるレイアウトにしましょう。近頃ではダイニングテーブルにソファを合わせて兼用するご家庭も増えていきます。



### 「広い」「明るい」「快適」が そろえば話が広がる

会話がはずむための基本条件として、広い、明るい、快適、があげられます。



しかし、ただスペースが広いのではなく“広く感じさせる”“明るく感じさせる”ための工夫が必要です。例えば、「リビングには吹き抜けや大きな窓を作って開放的にする」または、「中庭やデッキにつながっている」など広がりのある住まいづくりをしたいものです。またお子様のいるご家庭では、子供が部屋にこもりがちにならないよう、“リビングに子供が遊べる一角をつくる”またはその逆をとって、“子供部屋に大人がくつろげるソファを置く”などして、家族みんなが行き来できる空間を作っていくことが大切です。また、家族がすれ違いにならない予防法として、ある程度のルールを作っておくのもいいでしょう。例えば、「家族それぞれのスケジュールをみんなが目にする冷蔵庫に貼って把握しておく」「スマホやゲームの制限時間を決めておく」など、対話する時間を貴重にしていきたいものです。

## 特集

# 会話が生まれる空間づくり

ほんの少しの工夫で  
家族がもっと  
近づける住まい

### ★ “パーティ風”を日常で楽しむ

### まな板ひとつで前菜をどうぞ 会話がとぎれない演出を

週末は、少し早めの夕飯がてら、ワインでゆったりと前菜を楽しみながら、夫婦や仲間との会話も楽しみたいですね。フランスなどヨーロッパでは、まずチーズやハム、そしてナッツなどの乾き物をおつまみにしますが、盛り付け方も家庭によってさまざま。手取り早く豪華に見える方法は、木製のチーズボードやまな板に並べていくだけ。ロングタイプならスタイリッシュに盛り付けられ、テーブルランナーのように食卓の真ん中に置けるので、皆の手に届きやすく便利です。チーズやフルーツは一口大にカットし、クラッカーを添えておくと食べやすいですね。

ドライフルーツ:ワインに相性のいいレーズンやアプリコット、イチジクなどがおすすめ。  
ナッツ類:くるみやカシューナッツ、アーモンドなど。食感と香ばしさが楽しめます。  
フレッシュフルーツやハーブ:イチゴ・ブドウ・ブルーベリー・チェリーなど小粒のもの。  
ディップ類:はちみつ、クリームチーズ、ジャム、アボガドをつぶした物など。



Trend Style

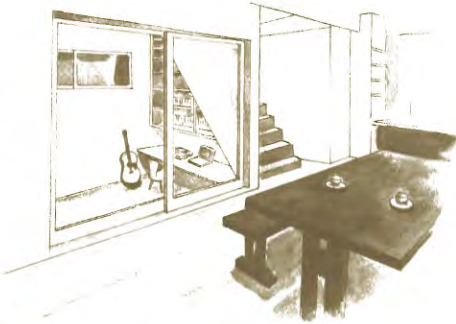
### 趣味の空間のための 交流が楽しめるインテリア

ライフスタイルの多様化によって、近年の家づくりも、その家族の“住まい方”に合わせていかに工夫を取り入れ、機能的に役立たせるかが重要になってきました。特に“趣味をもつ家族”が増えるにつれ、ユニークなレイアウトの住宅が受け入れられるようになりました。しかし、ただ自分が閉じこもるのではなく、大切なのは、いかに交流ができるかということ。今回は、様々な趣味が活かせるインテリアで、かつ“家族や人々との交流”ができる空間をご紹介します。



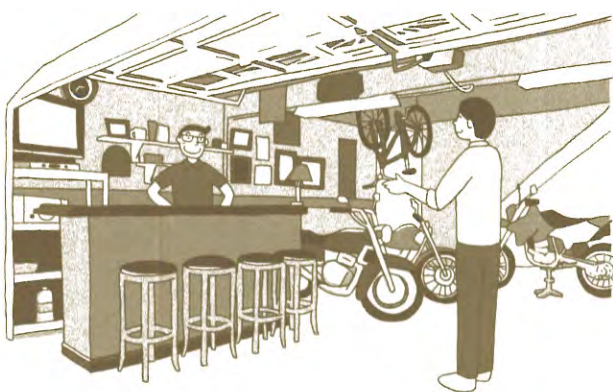
#### “音楽室”のあるリビングなら会話がはずむ

家の中で手軽に楽しめる趣味として、代表的なのは「楽器」といえるでしょう。音楽を聞くこと、そして奏でることは人々を癒し、ストレスを緩和してくれます。しかしながら、家の中で楽しむことによって問題になってくるのは、騒音のこと。特に、隣接している住宅や、夜間しか時間が無い時などは、近隣へ音が漏れていないか心配ですね。そこで、右のイラストのように防音設備を施した“音楽室”を設けてみませんか？よくありがちなのは地下のスタジオ等ですが、このように家族の集まるリビングの一角ですと、練習した曲を聴いてもらえる機会が増えて交流ができます。またガラス張りにすれば明るい空間にもなります。



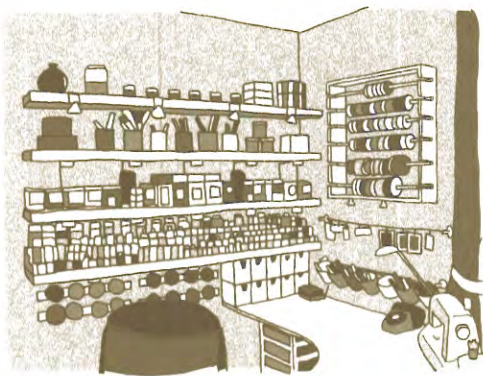
#### ガレージに趣味の仲間が集えるカウンターを

ガソリンの高騰やエコロジー志向などの背景から、近年は「サイクリング」を趣味に持つ人々が増えてきました。バイクなどもそうですが、始めると自然と仲間が増えてきて、ツーリングなどの趣味へのワクワク感が高まります。そこで今までは車を停めるか物置きにしか活用しなかったガレージで、もっと交流しよう！というアイデアをご紹介します。例えば、下のイラストのように天井を高くすれば



自転車をぶら下げることができ、ディスプレイも兼ねて省スペースに活躍。そしてカウンターを作ることで、自転車やバイクのメンテナンスをしながら、仲間とお茶を飲んだりお喋りが楽しめます。アウトドア用品が多いご家庭では、ガレージの収納にもこだわりたいですね。

#### 家事室や共有スペースの一角に ママも娘も楽しめる、クラフトルームを。



女の子がいる家庭では、クッキングをはじめ、クラフトなど手作りを一緒に楽しむ機会が多いと思います。その度に材料をテーブルに広げるなど準備に手間がかかるため、なかなか機会を設けてあげられない、ということもしばしば。そこで

いっそのこと、クラフトルームを作ってみるのはいかがでしょうか？家事室の一角でもいいから、材料をディスプレイしておけば、ちょっと時間が空いた時にいつでも作品を作ることができます。ミシンやビーズ、リボン、スクラップブックなど、材料別に整理整頓しておけばお友達が来た際にも、わざわざ準備をすることなく、クリエイティブな時間を楽しむことができます。もちろんママ友との交流にも最適な場です。



#### 階段まわりのスペースを読書の交流に活用



間取りに限りがあった“書斎が設けられなかった”という家でも、デッドスペースになりがちな空間を探せば、そこが本棚になるはず。例えば屋根裏や、階段の踊り場の壁を利用して、造りつけの本棚を作ってみませんか？幅にゆとりがあれば座る場所を設けると、そこがもうライブラリーに早変わり。特にお子様がいらっしゃるご家庭

においては、本のある生活は、その後の未来をつくる大切な教養が身につきます。いつでも好きな本が取り出せるよう、家族が目にする場に設置するのが有効的でしょう。もちろんDVDコレクションや小物のディスプレイにも活用できるので一石二鳥。家族が休憩できるスポットを少しでも多く持つことが、会話を増やす秘訣です。

#### ゲストが来た時に取り出す 簡易バーカウンターを用意

家づくりの段階から、階段下のデッドスペースを活用できるように空けておくと、あとあと様々な用途に役立ちます。例えば、イラストのように、ワゴンを使う場合は、来客時や晩酌の時にさっと取り出せ、お酒やコップ、お皿など、持ち運びが大変なものもスムーズに提供できるので、とっても便利。ワゴンは意外に場所をとってしまうので、階段下なら邪魔にならずにすみますね。



#### 家族の一員であるペットの 居場所を階段下スペースに



ペットを飼う際に気になるのが、居場所の問題。大きなケージを置くのは圧迫感を与えてしまい、限られたスペースを占領してしまうこともしばしば。あらかじめ空けておいた階段下なら、スペースをつぶすことなく、ペットも家族の一員として居場所を確保できます。例えば玄関の近くなら、散歩の行き来もしやすく、外のホコリを中のリビングまで持ち込むこともなく安心。

#### カウンター周りをカフェ風に演出するだけで 居心地のいい世界のできあがり



カフェを訪れると、なぜあんなに居心地がいいのでしょうか？「一人でも楽しめる」「適度なざわめき感が心地いい」など、カフェならではのくつろぎ感を、ご家庭内でも楽しんでみましょう。奥様が毎日過ごす空間といえば、キッチン。カウンター周りをカフェ風にアレンジするだけで、なんだかお店で働いているような気分になれます。ナチュラルな素材を取り入れたり、毎日のメニューを書き込める黒板を置くだけでも、カフェの雰囲気が演出できます。また、完全なオープンキッチンではなく、ちょっと顔をのぞかせるようなサイズのカウンター窓にするのも適度なつながりと囲われ感があり、カフェ風の居心地の良さが実現できます。「いらっやいませ」という感じで家族やゲストに接するのも、新鮮な気持ちでコミュニケーションをとることができて、素敵な毎日がすごせますね。



世界のインテリア  
中国の高級リゾート編  
From China



オーストラリアから中国に戻ってきた夫婦が選んだ週末だけの家は、自然も多く美しい街並みにあります。3階建ての瀟洒な外観は、スペイン風の窓やアプローチが魅力。さりげなく街灯も街の雰囲気にマッチしています。

### 中国で注目されるリゾート地に住もう

近年の経済発展がめざましい中国において、めまぐるしい都心から逃れて「静かなところに暮らしたい」というニーズが増えています。今回紹介する「寧波市(ニンポー)」は、海に恵まれているため、リゾート地としての開発が進められてきました。街もあり自然もあるこの市で、週末だけ利用されている、素敵なセカンドハウスをご紹介します。

特集

会話が生まれる  
空間づくり

ほんの少しの工夫で  
家族がもっと  
近づける住まい

### 寧波市(ニンポー)の高級住宅エリア

2008年杭州湾を横断して寧波(ニンポー)と上海を結ぶ大橋が完成したことで、更に住宅地が開発され続けています。海上橋としては世界



一の全長を誇るといわれるほどで、両市民たちのアクセスがとても便利になりました。写真の街並みは、今回紹介する住宅があるエリア。ヨーロピアンな建物とグリーンで美しく統一され、街全体がテーマパークのような清潔感が広がっています。

### 目的別に用意された週末だけのベッドルーム



日頃は上海でめまぐるしく共働いている御夫婦が、少しでも子供達にのびのびと育てほしいと「海のある街」へ家を建てました。週末だけ利用する家だからといって手を抜かず、家族それぞれのベッドルームにはこだわりが満載です。左の子供部屋にはお洒落なパイプベッドを用意し、クローゼットも完備。



右の写真は御夫婦のベッドルームで、奥様が大好きなヨーロッパのアールデコ調のインテリアに包まれています。ストライプの壁紙はいつまでも飽きがこないスモークピンクのものを、そしてシャンデリアや家具もアンティークで決めて。

### 玄関から階段まわりのおもてなし空間はぬかりなく

玄関を入ると、そこには大理石の階段が広がりお城のような印象を演出しています。また手すりの曲線の効果によって、空間をさらにゆとりのあるものに見せています。玄関には、ゲストが帽子やコートをかけられるハンガーを用意し、家族が整理整頓できる小物の引き出しなど、至れり尽くせりの“心遣いあるレイアウト”が光ります。



1階の小テーブルや中2階のソファなど交流の場が満載。



### 半オープンキッチンで晚餐風のディナーを実現

縦長のダイニングスペースを活かして、キッチンはコンパクトに設計。重厚なカウンターはキッチンと思えないほどの高級なイメージで、全体を通して「晚餐」風の食事が楽しめるスペースを実現しています。



縦長の部屋には、縦長のダイニングテーブルを置いて、床は大理石を用いることで、空間をより格式のあるイメージに仕上げています。短い階段を降りたところにソファを置いて、食事のすぐあとでも、ゲストや家族がのんびり過ごせるようになっています。



### カラーひとつで暮らしが変わる、

#### 色彩心理とインテリアの関係性



毎日の暮らしを囲むインテリアの色は、私たち住人の心にとっても影響があるといえます。照明ひとつをとっても、蛍光灯は青白く、電球色は暖かみを表現するなど、違いが大きく出ます。様々なカラーの中で、心理を大きく左右するのは“グリーン”の存在。自然をイメージさせる「安心」や「安らぎ」を与えてくれ、心を穏やかにしてくれます。例えば、リラックスしたい寝室やくつろぎたいリビングに効果的といえるでしょう。またグリーンは、暖色と寒色の中間にある色なので、ほとんどのカラーと上手く調和してくれ、インテリアとしては取り入れやすいのです。ただし、深緑や青緑は鎮静作用が強すぎて心が沈んでしまうこともあるので注意したいですね。一方で、赤や朱色は、「食欲を増進させて会話がはずむ色」といわれているので、リビングやダイニングに少しでも取り入れてみませんか。



### 自然と人々が集まる

#### ガーデンテラスのあれこれ

バーベキューやアウトドア志向の高まりで家の中だけでなくガーデンにも“居心地の良さ”を追求するご家庭が増えてきました。庭のスペースが小さくともウッドデッキのスペースを設けることで、家族や友人たちが憩える場所を少しでも作ってあげると、外での交流が楽しくなります。さらに、昔の人は“縁側を設ける”ことで、犬や猫との交流を楽しんでいたことが伺えます。ペットのいるご家庭では、ウッドデッキはもちろん、庭の一角に“洗い場”を作ることで、ペットも快適に過ごせるはずですし、ゲストと



ペットを一緒にお迎えできるので、楽しさも増します。子供がいるご家庭では、芝生の庭もいいですが、一角をデッキ仕立てにしてあげると、公園のような雰囲気が出て、遊びにも変化が生まれるはず。そこに折りたたみのテーブルと椅子をおけば、すぐにお茶や食事もできるので一石二鳥ですね。

# 気になりました 気に入りました...

## 家族の会話に華を咲かせる、アイデア光るインテリアアイテム

ちょっとした工夫のある雑貨で毎日の生活に“楽しさ”をプラス。デザイン性だけでなく、使いやすさの機能性にも追求した、こだわりのアイテムをご紹介します。

### 収納付きテーブルだから、食事の前にサッと片付けられる。 「おいしいキッチン ダイニングテーブル W1800」

ありそうでなかった、天板下に収納スペースが設けられたテーブル。さっきまで読んでいた本や新聞、おもちゃをさっさと片付けて、片付いたテーブルで食事を楽しむことができます。些細なことだけど、おいしく飯を食べるための大切なことを教えてくれるテーブルです。一見、とっても不思議な天板の形。凹んでいるところなどは意外に居心地がよく、使う人のことを考えたからこそできた優しさ溢れる設計なのです。一辺が直線になっているので壁付けができ、小家族用に、カウンタースタイルにすることもできます。



¥78,095(税別)

材質:タモ桎突板張合板(芯材:桐)  
ウレタン塗装仕上  
サイズ:幅1800 奥行900 高さ700 /mm  
重量:約27kg

生成りな暮らしのご提案 キナル  
Tel: 028-688-7183  
www.kinaru.com

### 毎日の調理はもちろん、オードブルをこのままサーブ 「Das Holz/カッティングボード」

北米の材料を使用し、福岡県大川市で1点1点ハンドメイドで作られる Made in Japanのカッティングボードです。一枚の板からできたシンプルなカッティングボードは、パンやチーズを切り分けるほか、オードブルやオープンサンド、お菓子をアレンジしてサービングボードとして食卓へ。まな板としてのご使用はもちろんのこと、サービングボードとしてのご使用がオススメ。パーティーの時活躍してくれること間違いなしですが、普段のランチやおやつの時に使えばそれだけでおしゃれなひと時に。

材質:ハードメープル/ブラックチェリー/ブラックウォールナット  
サイズ:15×40cm(持ち手含まず) 持ち手10cm 重量:約600g 生産:日本 ¥5,000(税別)



材質:磁器  
サイズ: #1:W8.2×D8.2×H1.1cm  
#2:W8×D9.2×H1.2cm  
#3:W12×D12×H1.3cm  
#4:W13.7×D16×H1.4cm  
#5:W18.7×D16.8×H1.6cm  
#6:W22.2×D21.5×H1.7cm  
生産:日本

### 思わず会話が飛び出すシェイプ 「ceramic japan/chatプレート」

「たのしい食事にかかせないのは弾む会話」そんな気持ちを持ちをプレートに落としこんだのがセラミックジャパンの「chat(チャット)」。漫画やゲームの中にできそうな



#3 ¥1,000(税別)

#1 ¥580(税別)

吹き出しなどをモチーフにデザインされた磁器製のプレート。テーブルが賑わうのはもちろんですが、こんなお皿だと料理を盛り付ける時ちょっと楽しい気分になります。普段のお皿として使ってももちろんO.Kですが、誕生日や記念日などプレートにチョコなどでメッセージを書いてサプライズに使うのも面白いのです。普段言葉で伝えられないことなどこのプレートを使って伝えてみて下さい。このユーモアなカタチがちょっと背中を押してくれます。その後の会話が盛り上がること間違いなしです。遊び心があり、アートな雰囲気が漂うこのプレートはパーティーなどにぴったりなアイテムです。

FULLangle  
Tel: 06-6882-8181  
www.japan-interior.com

## I'm Home

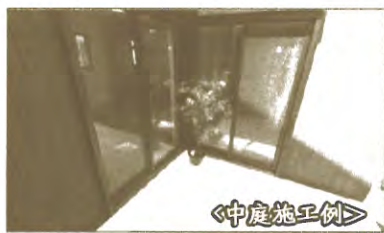
### ハウスプロがおすすめる暮らし方

Vol.4 空間の充実

#### お家の中心、リビングについて考える

従来、1階にあるのが一般的だったリビングも、最近では2階に設けるというスタイルも多く選ばれています。敷地条件や家族構成、ライフスタイルを見越し、それぞれの利点を生かしたプランニングで暮らしを豊かに。

#### 1階にリビング



＜中庭施工例＞

リビングイン階段を設けた1階リビングの例では、帰宅した家族がかならずリビングを通過することでコミュニケーションが取りやすくなるというメリットが挙げられます。プラス、吹抜けと組み合わせることで家全体の一体感を高める効果も期待できます。多方向からアプローチできる中庭をつくるプランニングでは、適度に遮られた空間が心地良く、室内に広がりを持たせることができ、庭木の景観を楽しむことも。



＜吹抜け施工例＞

#### 2階にリビング

2階にリビングを配置したプランは、一般的に豊かな採光を確保でき明るい空間となるというメリットがあります。1階に比べ開放感のある眺望を得られるケースが多く、道行く人や近隣などからのプライバシーの確保も可能といった面も魅力のひとつとして挙げられます。また、子ども部屋や寝室などの小部屋を1階に配するために壁量が増え、建物の耐震性が高まる場合も。



＜リビング施工例＞



＜ウッドバルコニー施工例＞

天井を高く取りやすいので大きな空間が作りやすく、屋根の傾きをそのまま室内に取り入れて勾配天井にすることで視覚的な変化も生まれます。開口部を広く取り、室内から繋がるような床材や出入りのしやすさを工夫してバルコニーとリビングをひと続きにすると気軽にアウトドアを楽しむプランニングも可能となります。

## 住み替えしませんか?もっと心地よい暮らしに。 House Pro

### ハウスプロが発信する 企画住宅



＜当社施工企画住宅＞

“ワンランク上の快適な毎日”を送っていただきたいと考える当社では、ローコスト建売住宅とは違う、デザイン性に富んだコンセプト住宅として、各分譲地ごとにモデルハウスを建築しています。スカイバルコニーや蔵収納、スキップフロアのリビングなども実際に目で見て触れて、体感していただいています。

### 自由設計で 「理想をカタチに」



＜ハウスプロカフェ＞

間取りや外観デザインなどを自由に選ぶことのできる建築条件付売地をご用意しております。デザイナーズハウスを手掛けるハウスプロならではのご提案は、敷地に合わせた間取りを設計するだけではありません。まずお客様のご要望を伺い、ご家族のライフスタイルや趣味、理想の住まいに近づくために必要な機能や将来の暮らし。さまざまな要素を反映して、家族の想いをひとつづつ形にするプランを実現します。お打合せは「ハウスプロカフェ」で。リラックスしながらマイホームの夢や新生活へ向けての有意義なお話をさせていただきたいと考えています。理想をカタチに。ご納得いただくまで、何でもご相談ください。

Stylish & Smart Life Creation 住まいをお洒落に愉しもう。

## センチュリー21ハウスプロ

〒274-0063 船橋市習志野台3-18-9 フラワービル1階  
TEL 047-496-0001 FAX 047-496-9000  
お問い合わせメールアドレス info@c21housepro.com



特選物件公開中!

ハウスプロ

